

高校教師の心得



第⑨回

ホームルーム指導



監修
服部 次郎

(はっとり・じろう) 東京女子体育大学・短期大学教授。筑波大学附属坂戸高等学校教諭、同校長、筑波大学教授などを経て、2006年4月から現職。全国高等学校長協会理事など公職を歴任している。

前回は、生徒指導全般と、その中の生活指導について述べました。今回は、生徒指導の2つ目、ホームルーム指導です。

ホームルーム指導とは、生徒の学校生活の基盤であるホームルーム（学級）が望ましい集団生活の場となるよう、担任として指導することです。人気ドラマ「ごくせん」の“ヤンクミ”は、自分が担任する生徒のピンチに飛び込んでいって、「あたし？ あたしはこいつらの担任のセンセイだよ！」とたんかを切って悪者たちをなぎ倒し、生徒を守ります。現実の先生はあんなに強くはないけれど、「担任といえば親も同然」に近い意識を持って当たるべき仕事ホームルーム指導です。

若い高校教師は、入学してきた1年生のホームルーム担任になって、3年間のホームルーム経営に汗を流し、初めての卒業生を送り出してから一人前と認められるのです。

ホームルームは学校生活の基盤

生徒は原則としてホームルームを単位として授業を受け、体育祭や文化祭などの学校行事にもホームルーム単位で参加します。つまり、生

徒は学校生活の大半をホームルームで過ごすことになり、ここで望ましい人間関係の形成や集団の一員としての在り方を学ぶことは、生徒のより良い人格形成に大きな影響を与えます。逆に、ホームルームで望ましい人間関係が築けなかったり、あるいははじめの被害にあったりすれば、生徒にとって学校は楽しい場所ではなくなります。

つまり、生徒が望ましい集団生活の中で、個性の伸長を図りながら、より良い人間関係を築いていけるようなホームルームを形成するために、ホームルーム担任の役割は重大なのです。

ホームルーム担任の仕事

担任の仕事の第一は、自分の担任する生徒たちが、日々、前向きな学校生活を送って成長しているかどうかを感じ取ることです。

担任は、毎朝のショートホームルーム（SHR）で出欠を確認し、連絡事項を伝え、生徒の学校生活を励ますような短い訓話をします。その際に、生徒たちの反応からホームルームの雰囲気を感じ取るようにします。生徒同士の関係にひずみはないか、特に暗く落ち込んでいる生徒はいないか——。短い時間の小さなやりとりから、多くの情報を読み取ります。そこで気になったことは、教室を出てから、教務手帳（担当する生徒の名票が載っている手帳。出欠や成績などを書き込む教師の必携品）にメモしておきます。生徒間の小さな感情の揺れを感じ取り、事態に応じた適切な集団指導や個別指導を通じて生徒間の関係の修復を図り、望ましい人間関係が形成されるように導いていくことは、ホームルーム担任の重要な役割です。

担任の仕事の第二は、特別活動としての「ホームルーム活動」を指導することです。具体的には、毎週1時間・年間35時間以上のロングホームルーム（LHR）の指導です。「ホームルーム活動」の目標や内容については、新学習指導要領の第5章「特別活動」（p.353）に記されています。担任は学校の生徒指導目標、学年のLHR年間指導計画に従って、自分のホームルームではどのように指導するかを考えます。望

ましい集団活動を通じて、より良い人間関係を築き、人間としての在り方・生き方について考えることのできるようなLHRを運営することが、担任の仕事です。

しかし、これはたやすいことではありません。担任に「ホームルーム活動」の意義と方法についての明確な理解と使命感がなければ、年間指導計画は形骸化し、席替えや、選手決めや、レクリエーションや教室掃除の時間に費やされてしまうようなこととなります。「ホームルーム活動」の意義や方法について、今のうちからしっかりと勉強しておいてほしいと思います。

集団指導と個別指導

ホームルーム指導の基本は、集団指導です。集団指導の基本は、すべての生徒を平等な人格として取り扱うことです。

生徒が、教師の対応の仕方で最も嫌うのは、「依怙^{こひ}^い^き」です。自分を慕ってくるかわいい生徒には優しくし、自分に反抗的な生徒には厳しく当たる、というのは人情として分からないでもありません。しかし、教師は人情で指導してはいけません。慕ってくる生徒には、むしろ近づき過ぎないような節度を保つことが必要です。反抗的な生徒には、反抗の原因を理解して、その心を溶かそうとする温かさが必要です。

また、ホームルーム指導の目的は、生徒の自主性・主体性を養うことです。教師の一方的な指導になり過ぎてはいけません。生徒は、ホームルームでさまざまな社会的活動を体験し、民主的な集団運営のルールを学び、与えられた環境内での自己実現の能力を養います。そのた



めには、教師の適切な指導と生徒の自主的・主体的な活動とがうまくかみ合って、ホームルームが運営されなければなりません。教師の管理主義的指導が強過ぎると、生徒が萎縮して自主性が育ちません。逆に、教師の指導が弱いと、生徒は放任されて無秩序なホームルームになります。教師の適切な指導と生徒の自主的・主体的な活動との相乗作用によって、ホームルーム活動の成果は上がるのです。

一方で、ホームルーム指導では、生徒一人ひとりの個性に応じたきめ細かい個別指導も必要です。個別指導は、問題行動を起こした生徒の事後指導として行われることが多いですが、それだけではなく、問題を未然に防ぐために、すべての生徒に対する日常的な個別指導が大切です。その際、カウンセリング理論を学んでおく^と役立つでしょう。教育相談の際には、教師にもカウンセラーのような心（カウンセリングマインド）が必要です。教師の価値観をすぐに押し付けることなく、生徒の話に根気よく耳を傾け、心配事や心の悩みに共感する柔らかな心を持つことが必要です。

Point!

**「ホームルーム指導」とは、
「生徒の学校生活の基盤であるホームルームを、
望ましい集団生活の場となるよう、担任として指導すること」**

- ショートホームルーム(SHR)…毎朝の観察から、生徒の小さな変化を読み取る
- ロングホームルーム(LHR)…望ましい集団活動の在り方を考えながら、集団指導と個別指導の両面にわたって、使命感を持って運営する

☆次回 は 道徳教育を取り上げます。